

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市南吉成児童館		
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団		
3 指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和5年度 22,750人(前年度比 110.0%) 令和4年度 20,687人 令和3年度 17,873人		
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業		
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額		
	・ 指定管理者に支払った費用	37,524千円	(35,309千円)
	・ その他市が負担した費用	0千円	(0千円)
	《収入》		
	・ 使用料収入	0千円	(0千円)
	・ その他収入	0千円	(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。		

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>「生き生きと活動する児童を育み、豊かな子育ての輪を広げる児童館」を重点目標に取り組みました。児童館の4事業の特色ある活動を紹介いたします。</p> <p>健全育成の「子どもまつり」は、子育て支援クラブや大学生ボランティアの協力のもと遊びコーナーを設け仙台ひと・まち交流財団として最後の祭りを思う存分楽しみました。小・中学生スタッフが企画運営に携わり、自分たちの祭りとして意識を高めたことは子どもたちの自信につながりました。</p> <p>子育て家庭支援の「わくわく遊具day」は、常時活動に加え大型遊具を数多く準備し、体を動かしながら親子・保護者同士の交流の場となりました。この活動に職員による読み聞かせや様々な手遊びコーナーをスペシャルデーとして定着させ、参加者相互の結びつきを深める場に発展させました。</p> <p>地域交流推進として、「みんななかよしふれあい交流会」を社会福祉協議会と共催で実施しました。小学生親子や幼児親子、地域の人々などでマジックショーを楽しむ一方、工作遊びをする中で声をかけ合いながら世代を超えた和やかな雰囲気でも活動しました。</p> <p>「権現森ハイキング」は、権現森自然研究会の方から花木についての話を聞くとともに親子で自然と親しむ会となり地域を知る一手立てとなりました。山の散策に不安を感じている方々でも案内して下さる方がいらっしゃる事で安心して参加できた行事の一つです。</p> <p>放課後児童健全育成として「みんなで楽しもう発表会」や「児童クラブお楽しみ会」を企画しました。自分の得意な遊びを披露したり職員の発表を盛り込んだりと共に作り上げる達成感を味わうことができました。</p> <p>年間行事を振り返ると猛暑のため大学生との遊びを中止した以外は、計画的に実施することができました。乳幼児親子の利用が増えたことで職員のOJT研修も活気づき後進の指導にもつながり充実した1年間でした。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、令和5年度は、恒例の「春風コンサート」を南吉成小学校の体育館で規模を拡大して開催した。児童の来館増加と地域の方と文化活動を通じた交流を広める事をねらいに行われ、多くの親子が参加した。また、中高生タイムには児童クラブの卒業生を中心に児童館を訪れ、卓球やバスケットボール等で過ごす他に、小学生や職員との談笑等で交流しており、地域における中学生の居場所となっている。その他「子どもまつり」の小中高生のボランティア活動を通じた成功体験は「みんなで楽しもう発表会」に向けた意欲的な姿に繋がる等、できた自信や自己肯定感を育む機会となった。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、感触遊びや運動遊び等、多様なプログラムを提供している年齢別の定例行事の他、令和5年度は宮城地区の子育てネットワーク会議における主任児童委員の提案で、児童館と保育園の連携強化をねらいに「わくわく遊具dayスペシャル」を新設した。地域の主任児童委員や保育士を招いて親子のふれあい遊びを通じた参加者同士の交流と気軽な相談の場の提供を関係機関と連携し、定期的で開催して子育て家庭を支援している。</p> <p>地域交流推進事業においては、「権現森ハイキング」の自然体験や「囲碁・将棋であそぼう」の他、読み聞かせ「おはなしの部屋」等、地域の様々な世代の方々の指導、協力を得て活動する場が豊富にあり、多世代交流を通して子ども達の社会性や自主性が育まれている。囲碁や将棋は高学年が低学年に教えたり、地域の方が児童館を訪れ対局する等、異学年交流・多世代交流の深まりが見られている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、本館とサテライトの児童の交流の場として「ふれあいタイム」を週に2回設け、運動遊びを通して異学年交流が図られている。また、週1回の職員会議では、振り返りの中でヒヤリハット事例による要因分析を行い事故防止に努め、子どもが安全に安心して過ごすことができるように環境を整備している。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課